

山形大学人文社会科学部外部評価報告書

山形大学人文社会科学部では、大学改革支援・学位授与機構による大学機関別認証評価の一環として、令和元年度に教育関連の諸観点を中心とした第三者評価を実施しました。評価は3名の外部委員にお願いし、委員の皆様から、外部評価実施報告書を提出していただきました。人文社会科学部が力を入れた取組に対して評価していただくとともに、改善すべき点や今後の進め方について、建設的なご意見・ご助言も頂戴しました。以下では、外部評価結果の概要、および指摘事項への対応について説明いたします。

委員の皆様から、優れていると評価された点は以下の通りです。

- 1) グローバル・スタディーズコースにおいて留学を必修化している
- 2) 科学的分析力を身に付けるジェネリックスキル科目や実践力を養成するPBL科目を必修化している
- 3) アドバイザー制など、学生が相談できるシステムを構築している
- 4) 地方国立大学でありながら、ナスカ研究など特定の分野を強化している
- 5) 多様な分野の教員の連携により、地方創生に関する研究体制をとっている

1)、2)は、平成29年度の学部改組の際に重視した取組です。実施にあたって、関連教員が効果的な教育研究活動を実施できる体制づくりに努めましたが、全委員から社会的要請に応える取組であるとの評価を受けました。今後も、教育成果の検証を行い、教育方法の改善に取り組んでいきます。3)のアドバイザー制では、就学指導のみならず、学生生活についても教員に相談できる体制を構築していることが特徴です。現在、新型コロナウイルス対策によって、学生との対面ができない状況ですが、アドバイザー教員を通じて学生の情報の把握に努めており、アドバイザー制が有効に機能しています。4)に関しては、ナスカ研究の国際的な評価が高まっており、研究体制の強化を進めます。5)についても、学部の附属研究所が自治体等から地域課題の解決に関する研究を継続的に受託しており、今後も、地域貢献に努めていきます。

委員の皆様から、改善を要する点として、以下の指摘を受けました。

- 1) 一部個別的に発生する事例（追試験の実施の可否など）が担当教員の判断となっているが、最終的に教授会等で責任をもった判断がなされるのが望ましい。
- 2) インターンシップについて、地域社会に積極的に関わる意識の醸成になっているかの検証が必要である。
- 3) ハラスメント防止に向け、さらなる積極的な取り組みを示すことが望ましい。

1)については、本人の病気やケガなど、追試験を実施する条件は定められていますが、

担当教員の判断で例外的に追試験を実施することが可能となっています。今後は、例外と判断する適切性を教授会で確認する仕組みの構築など、公正な成績評価の実施に努めます。

2) については、インターンシップに参加する学生に対して、事前、事後のレポート作成を義務づけており、アドバイザー教員が指導にあたっています。地域社会に対する関心や問題意識を高め、どのように地域社会に関わり、貢献するかを考えさせるよう、指導方法を一層、工夫していく所存です。3) のハラスメントに関しては、専門家を招いた研修会の実施や教職員同士の勉強会を通じて、教職員や学生の問題意識を高め、防止策を強化する予定です。

そのほか、以下の助言・提言をいただいております。

- 1) 学外にわかりやすく説明する工夫や研究成果の可視化を進めるとよい
- 2) 大学院改革にも期待したい
- 3) 地域とグローバルの強いリンクを示されるとよい

1) については、取組が自己満足にならないようにするうえでも重要であると考えます。目的を明確にして適切な手段を講じ、結果を検証するという手順を踏まえ、様々な取組が学生や地域にどのような効果をもたらしたかを常に把握するように努めます。2) に関しては、すでに、新研究科設置に向けて準備を進めています。学際性を重視した教育研究体制を構築し、複雑化する地域の課題の解決に貢献できる人材の育成を目指します。3) については、地域とグローバルは人文社会科学部の教育研究テーマですので、地域の理解とグローバルな視点に基づく人材育成の重要性をわかりやすく社会に発信していきたいと存じます。

委員の皆様には、年度末のお忙しい中、詳細な報告書を作成していただき、心より御礼申し上げます。

山形大学人文社会科学部長 是川 晴彦